

## 梅雨の季節 「翠雨」「喜雨」「甘雨」「穀雨」



梅雨の季節になりました。近年は異常気象が続き、予測不可能な局所的な大雨が「ゲリラ豪雨」という名前と呼ばれています。

日本人は、雨や風などの自然現象に季節の移ろいを繊細に感じ取って、様々な名前をつけてきました。特に、恵みをもたらす雨の名前には、感心させられるものがあります。青葉に降り注ぐ恵みの雨を「翠雨」、日照り続きの後に降る喜びの雨を「喜雨」、草木を潤す、しとしととした雨を「甘雨」、穀物に成長を促す雨を「穀雨」などと表します。特定の日に降る雨にまで、名前があります。陰暦7が6日、七夕の前日に降る雨を「洗車雨」と呼びます。彦星が織姫に会う時に乗る牛車を洗う雨のことです。七夕に降る雨は、彦星と織姫が流す涙という意味で「催涙雨」と呼びます。

その時々雨に、先人たちは名前を付けて、四季の風情を感じ取り、自然の営みに感謝していました。私たちも、そうした生き方に学びたいものです。



## 「雨」は悪者!? 「天気が悪い」「足元の悪い中・・・」



梅雨前線が日本列島付近に停滞し、雨の日が多くなる時候です。この時季は、洗濯物の乾きは悪くなり、外に出れば、足元を濡らされることもたびたびあります。また、垂れ込む雲のせいか、気分がすっきりせず、仕事が思うように捗らないといった影響も受けがちです。多くの人に好まれるとは、言い難い季節でしょう。

雨が降る際によく使われる言葉に、「天気が悪い」「足元の悪い中・・・」などがあります。これは梅雨時限定の言葉ではなく、一年を通して使われます。他にも、「悪天候」や「雨に祟られる」などというものもあります。

果たして、「雨」は悪者なののでしょうか。確かに、晴天でなければ仕事ができない業種から見ると恨めしい天気でしょう。しかし、「恵みの雨」という言葉もあるように、立場や見方が変われば、「雨」も決して悪者とばかりは言えません。

「雨」そのものが悪なのではなく、悪にしているのは自らの心です。大自然の営みである天候気候は、そのまま受け入れ、順応することが求められます。「晴れて良し、降って良し」と、長雨に心を曇らせないようにしたいものです。



